

# 子宮の夢

## Rêve de l'utérus

KAZUO KONNO Exhibition STERILE CREATURE

～中性花 植物造形～より

9<sup>th</sup> (sat)-15<sup>th</sup> (fri) June 2012

at MUSEO DE ARTE CONTEMPORANED DE SEISHI NAKAMOTO

竹野博思

### 植物の性差

今を盛りと咲き誇る花々はもちろん、活木や枯木、また若葉や落ち葉、或いは折れた幹や乾いた根っこであれ、それらの様々な植物群は、絵具や石膏のように、マチエールの一つでしかない— 観る者にそうした感慨を想起させることこそが、今野カズオを華道家ではなく、一表現者として存在たらしめる理由になっている。

これから「KAZUO KONNO Exhibition STERILE CREATURE ～中性花 植物造形～」展に歩み入るに際し、或る論考を引用することから始めたい。

祭りや儀式を行うときに、美しい花で会場を飾る習慣があるのは、昔から、世界中どこでも共通している…(略)…恋人たちは愛のしるしとして、堇や薔薇の花を相手に贈るのである。花言葉などという、象徴的な意味をもった種類の花さえある。

ところで注意すべきは、花とは植物の性器である、という事実だ。

誕生日の贈り物に、馬や猫の性器をプレゼントしようなどと考える人間は、どこにもいないにちがいない…(略)…。

植物の性器が、色彩においても匂いにおいても、あのように美しく、しかも公然と人々の鑑賞の眼ざしにさらされているのに、一方、動物の性器が、一般に醜く滑稽なものと思われ、誰もこれについて語る者さえいないのは、よくよく考えてみると、まことに不思議なことではないだろうか。

ダリアは、ダリアという植物そのものの形態よりもむしろ、その花(性器)のために鑑賞されるのである。

澁澤龍彦『エロティシズム』「花とセックス」より抜粋

澁澤らしい慧眼が光る一説である。これはエロティシズムへのアプローチとして「視線の弁証法」を論じたものであり、雄蕊・雌蕊両方を有する両性花や雄蕊・雌蕊一方しか有しない単性花について論じたものではない。しかし、「花は植物の性器である」という着眼点に留意すると、雄蕊・雌蕊ともに退化した不稔性の花を意味する中性花という個展タイトルに秘められたものが自ずと、垣間見えてくると思われるのである。

### 意識としての森

その空間は一つの森になっている。森の思想。しかし、その空間はゲルマン民族的な厳格な思考に裏づけられ構築されているものではなく、農耕民族が遺伝子のなかに脈々と受け継いでいる慈悲の心に満ち満ちている。しかし、そこには禁欲的なまでに研ぎすまされた緊張の糸が蜘蛛の巣のように張りめぐらされていることを見逃してはならない。その糸は、苦い夜露と清澄な朝露という、諸刃の刃にも似た殺気を隠しているからである。そこには、性という過剰の痕跡は一雫も残されてはいない静謐な空間が漂っている。中性花というタイトル自体が、その総てを物語っている。

甘く清々しい匂いが、この展示空間に充満している。しかし、これは生を謳歌する匂いではなく、刻一刻と朽ちていく死の匂いである。この甘美な死の匂いの自覚こそが、再生への序章であり、復活への道標となる。

単純に考えていただきたい。男性的機能を有した雄蕊でも、女性的機能を負荷された雌蕊でもない中性花というタイトルに秘められた本個展の底流に隠された基調こそ、水面に映る仮初めの華やかさに対峙する根茎の死を、これみよがしに顕現させた作家の意思一死の提示と生の予言一以外のなものでもない。

ここで、森の入り口に掲げられた作家自身による詞華を思い出していただきたい。

### STERILE CREATURE

枯れた樹には 様々な物語がある。

それは 生命の終焉 “死” の時などではない。

新しい葉を茂らせ 芽を育み 次の成長へ出発する為の 陰の命。

艶やかに咲く花へ 秘密の養分 を与える命。

僕はそんな陰の命に挑む

揺れながら命を燃やす 中性花に込めて挑む。

今後 この作品達は皆 森に還る。

天命を全うする為に 土に還る。

大地の 地球の律動に想いを馳せ 心の耳に五感をあずけた時  
枯れた植物達の声ははっきりと聞こえた。

～ 生と死は不二である ～

間もなく訪れる 躍動の季節に喜びを感じたら 思い出して。  
厳寒に生き抜いた 大地を陰で支える美しい命の事を。

季節は廻る。 命も廻る。

この惑星の素晴らしい植物達に 愛を込めて。

### 赦された夢

この再生の物語は、朽ちた性器の露出から始まり、『SUGIZOU』という一本の瑞々しい男根の起立で終焉する。作家は、その『SUGIZOU』に或るメッセージを託した。その最後の言葉に耳を傾けたい。

### SUGIZOU

ここから向こう側へは行ってはいけないよ。  
今いる所で 今生きている場所で 精一杯やっていくんだよ。

私はあなたの中にいる もう一人のあなたなのだから。

もしかするとこの空間は、植物というマチエールで彩られた第二の子宮空間なのかも知れない。子宮は生と死という二つの命を宿することができるからである。しかし、それは女性的機能を負荷された雌蕊だからこそ可能になる事象であり、機能を負荷されていない中性花では不可能である。

しかし、次のように考えることはできないであろうか。この空間では性から生へ、生から死へ、そして死から生へ、と再生または新生の連環が啓示されている。その連環の中で、マチエールとしての植物が、失われた遠い遺伝子の記憶—それは一瞬の幻かも知れない—を呼び覚ましたのではなかろうか、と。

つまり、この空間自体が、中性花という生殖機能を有しない子宮の夢そのものなのである。花を咲かせ、種子を排出する夢想、その器としての子宮、そしてその裏切り。

この空間で、来訪者は生きるという夢を見るのである。生きることが夢か現か、それは「わたし」という個々の種子の発芽を、どのように覚醒するか委ねられている。また、「わたし」とは SUGIZOU が語る「もう一人のあなた」なのかどうか、その確証すら必要としてはいない。なぜなら、彼岸と此岸との境界線に佇む SUGIZOU は新生の条件として、忘却という免罪の種を知らぬまに「もう一人のあなた」に孕ませているからである。

子宮の夢—それは生の祝祭にほかならない。

#### 今野カズオ プロフィール:

アートと植物の可能性を追求するフラワーアーティストとして、植物という絶えず変化する自然の素材を使い、フラワーライブや立体造形・写真表現等、芸術的造形表現を行う。

植物の命の力をより多くの人に感じてほしいとの思いから2005年より注文を受けてからデザインを施すオーダーメイドの花のアトリエ FLORISTGREENDAYS を主宰。併せて KAZUO KONNO DESIGN WORKS を立ち上げる。

数々の大手企業や有名ブランドとのコラボレーションによる装花やウエディングフラワーのプロデュース・雑誌、TV 等へのデザイン提供・フラワーデザイン講師等仙台を拠点に全国で活動中。